様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 22 年　5 月　1 日現在

研究種目：　基盤研究(B)
研究期間：　2006　～　2009
課題番号：　18390582
研究課題名（和文）　ストーマ保有者の生きる力形成に及ぼすＷＯＣ看護の効果
研究課題名（英文）　Effect of the life power formation for the people with ostomy by Wound, Ostomy and Continence Nurses.

研究代表者
前川　厚子（MAEKAWA　ATSUKO）
名古屋大学・医学部（保健学科）・教授
研究者番号：20314023

研究成果の概要（和文）：ストーマ保有者の生きる力形成に及ぼすWOC看護の効果を明らかにする研究に取り組んだ。現在、結腸・直腸がん治療法は著しく変化している。ストーマ手術件数は減少しているが、化学療法を受ける患者が増加した。ストーマ保有者の生活においては、併存疾患のコントロール、介護課題がより深刻な様相を見せていることが分かった。WOC看護師の業務は、対象者の治療法に関連して変化していたが、在宅療養に移行したストーマ保有者への支援の拡大は今後の課題である。

研究成果の概要（英文）：We wrestled for study to clarify an effect of WOC nursing to give to the power formation for living with stoma.　The medical treatment for colorectum cancer changes remarkably now. Number of ostomy performance cases ware decreased, but the patient who underwent chemotherapies increased.　In life, patient with a stoma shared it that control of a coexistence disorder, a care problem showed a more serious aspect. The duties of WOC nurse changed in conjunction with a therapy of a subject, but expansion of support to the stoma patient who shifted to home care is a future issue.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2006 年度	2,200,000	660,000	2,860,000
2007 年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2008 年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2009 年度	1,800,000	540,000	2,340,000
年度			
総　計	7,300,000	2,190,000	9,490,000

研究分野：医歯薬学
科研費の分科・細目：看護学　・　臨床看護学
キーワード：ストーマ保有者、WOC 看護、生きる力の形成、OAI-23

１．研究開始当初の背景

ストーマ保有者に対する専門的なケアの効果はストーマ周囲皮膚管理面では明確にされているが、Wound, Ostomy and continence Nurses (WOC 看護師) の役割において生きる力の形成に及ぼす効果は不明

であった。そこで、手術前からの WOC 看護師の関わりの有無によりストーマ保有者の自己適応に格差が生ずるかどうかを明らかにしたいと考えた。
　そのためにはストーマリハビリテーションのアウトカムが国際比較できる評価法の確立が急務であった。

２．研究の目的
　ストーマ保有者に対する WOC 看護師の専門的なケアの提供が、生きる力の形成にどのように影響するのかを明らかにすることを目的とした。専門的なケアの提供と WOC 看護師の関与については国際的に比較検討できるアウトカム尺度（Ostomy Adjustment Inventory；OAI-23）の開発を行い、関連要因を明らかにした。

３．研究の方法
　約1,300 名のストーマ保有者を対象者とし、日本と英国において自己記入式調査表を用いた調査とインタビューを行った。量的調査から OAI-23 の妥当性と信頼性の検証を行い、リハビリテーションに関連する多面的な要因を確認した。
　WOC 看護について術前、術後早期、1 年目、３年目、5 年以上の長期間の生存とライフイベントを遡り調査し、ストーマ手術体験と生きる力の形成に専門的なケアの関与の有無と影響を比較検討した。

４．研究成果
　4 年間にわたるストーマ保有者を対象にした研究から明らかにしたことは以下のようである。
(1)ストーマ造設術を受ける場合の入院期間は約10～17日と短縮している。セルフケア教育は入院中だけでは完結せず、ストーマ専門外来や訪問看護による継続的な管理が不可欠となっている。また、化学療法を受ける場合には、WOC看護師はがん治療チームの一員として手足症候群の予測やスキンケア指導、症状コントロールなど高度専門的な知識と技術の提供をしていることが明らかになった。
(2)WOC看護師は終末期に緩和ケア目的で再入院するストーマ保有者に対して直接的な役割としてストーマケアと排泄管理、全身のスキンケア、褥瘡発症の予防と安楽ケア、創傷管理を行い、他の職種との調整機能を果たしていることが明らかになった。全人的ケアを進める上で「もう楽になりたい」「つらい、死にたい」というスピリチュアルペインのニーズを的確に捉え、苦痛の除去に努める技術と方略を身につけることはWOC看護師に求められる課題であり、その継続教育の開発が求められる。
(3)在宅療養中のストーマ保有者に関わるWOC看護師は家族介護者のケア不足を補うために訪問看護師、ケアマネジャーと連携した支援を行う必要がある。特に各地で高齢者率が20%を超える現在、独居や超高齢者世帯は急増しており、その中で視覚障害や認知機能障害、がんの進行や治療による症状を伴う場合はストーマ管理も他者に委ねる必要があり、家族機能のアセスメントと具体的な介入計画が重要である。現在の訪問看護制度の中では、排泄物の漏れやスキントラブルが生じ、重篤な身体症状が持続する場合でも訪問回数や時間の制約があり、複数の看護師の同行訪問が困難な場合が多いことは今後の課題である。在宅看護領域で管理困難なストーマケアに関わることができる訪問看護師の育成が不可欠であり、WOC看護師との同行訪問制度を築くことが必須と考えられた。
(4)　ストーマ保有者の適応（Self Adjustment）状態を国際的に比較するために日英のストーマ保有者の協力を受けて Ostomy Adjustment Inventry-23（OAI-23）を開発し、国内外のストーマリハビリテーション関連学会と WOCN 誌で発表した。OAI-23 を用いた国際比較研究では日本、シンガポール、ブラジル、イスラエル、オランダ、米国との協働が発展し、現在に至っている。
　日本と英国、シンガポール、米国においてはストーマケアに関わる看護師の業務が医療機関においてリソースとして確立しており、WOC 看護師の専門的役割は拡大しており、特にスキンケアと創傷管理においては「ストーマ保有者の生きる力」の活性化に卓越した機能を果たしていることを明らかにした。具体的には、緊急手術で WOC 看護師の関わるチャンスがなかったストーマ保有者や病院に WOC 看護師が雇用されていないために術前教育を受ける機会がなかったストーマ保有者は適応度（OAI-23）が有意に低く、WOC 看護師により系統的な患者教育を受けたグループは適応度が高く、さらに主観的な人生の満足度、SF-8 得点も有意に高かった。
(5) 学会発表において以下 2 点は学会長優秀ポスター賞を獲得した。
①祖父江正代、<u>前川厚子</u>、<u>竹井留美</u>：ストーマケアにおける患者と看護師の相互行為と自己適応の関係、日本ストーマ・排泄リハ学会、2008 年 2 月(青森市)
② <u>Atsuko MAEKAWA</u>, <u>Rumi TAKEI</u>, Masayo SOBUE, Masako MAKINO ,Noriko MENJU：An Experience to live with Urinary Stoma: World Council of Enterostomal Therapy Nurses 学会,2008 年 6 月(ルブリアナ市、スロベニア)

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 47 件）
①前川厚子、竹井留美，鈴木宏昌，祖父江正代，吉田和枝テ：キストマイニングを活用したストーマ・排泄リハビリテーション研究の動向分析、日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会誌 26（1）146.2010、査読あり
②祖父江正代、前川厚子：壮年期ストーマ保有者への心理的サポートのために がん終末期ストーマ保有者のスピリチュアルペイン構造とスピリチュアルケア、日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会誌 26 (1) 57.2010.査読あり
③Simmons KL, Smith JA, Maekawa A.: Development and psychometric evaluation of the Ostomy Adjustment Inventory-23. J Wound Ostomy Continence Nurs.36(1):69-76. 2009 査読あり

④高橋都、加藤知行、前川厚子、小池真規子、甲斐一郎：ストーマ保有者の性相談に関する ET/WOC ナース調査　相談の実態とナースの情報ニーズ、日本創傷・オストミー、失禁ケア研究会誌.13(1):31.2009、査読あり
⑤祖父江正代、前川厚子、馬場真子：がん終末期患者の褥瘡に対する意味づけとケアへの期待、日本褥瘡学会誌 11（3）406.2009. 査読あり
⑥前川厚子、竹井留美，祖父江正代，吉田和枝，小林文子，渡辺富美子：在宅看護学の教科書におけるストーマケアのコンテンツ、日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会誌 25（1）124.2009.査読あり
⑦祖父江正代，前川厚子，竹井留美，馬場真子：ストーマ保有者にみられるスピリチュアルペイン構造、日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会誌 25（1）62.2009.査読あり
⑧竹井留美、前川厚子，國府浩子，澤井美穂，安藤詳子，牧野雅子，祖父江正代，堀井直子，藤田紀見，吉田和枝，廣畑加代子，酒井幸子，岡部美幸：がん体験者の語る「がんを生き抜く秘訣」、日本がん看護学会誌.22（Suppl.）.226.2008.査読あり
⑨竹井留美，前川厚子，祖父江正代：K オストミークラブ会員における人生の満足度の縦断的検討、日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会誌 24（1）149.2008. 16. 査読あり
⑩前川厚子、竹井留美，祖父江正代，伊藤美智子，小林文子，渡辺登美子，作間久美，平井孝，丸田守人，中里博昭：ストーマ保有者の自己適応と SF-8 にみる QOL の関連性 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会誌)24（1）125.2008.査読あり
⑪祖父江正代，前川厚子，竹井留美：ストーマケアにおける患者と看護師間の相互行為と自己適応との関連性、日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会誌.24（1）.148.2008. 査読あり
⑫祖父江正代，前川厚子，竹井留美：、結腸ストーマ保有者の自己適応過程とそのパターン分析、日本創傷・オストミー・失禁ケア研究会誌 11（2）41-51.2007. 査読あり
⑬牧野雅子，藤田紀見，祖父江正代，竹井留美，近藤かおり，廣畑加代子，吉田和枝，堀井直子，前川厚子：尿路ストーマ保有者の「ストーマとともに生きる体験」、日本がん看護学会誌 21（Suppl. ）101.2007.査読あり
⑭祖父江正代，前川厚子，竹井留美，吉田和枝，近藤かおり，堀井直子，藤田紀見，牧野雅子，廣畑加代子：ストーマを保有する患者への周術期教育が日常生活と自己適応に及ぼす影響、日本がん看護学会誌 (0914-6423)21（Suppl.）81.2007.査読あり
⑮吉田和枝，竹井留美，牧野雅子，堀井直子，藤田紀見，近藤かおり，廣畑加代子，祖父江正代，前川厚子：消化管ストーマを保有する高齢者の「ストーマとともに生きる体験」日本がん看護学会誌 21（Suppl. ）88.2007. 査読あり
⑯堀井直子，廣畑加代子，藤田紀見，竹井留美，祖父江正代，吉田和枝，牧野雅子，近藤かおり，前川厚子：がんによりストーマを保有する患者のソーシャルサポートの現状と課題、日本がん看護学会誌 21（Suppl. ）85.2007.査読あり
⑰祖父江正代，前川厚子，竹井留美，吉田和枝：ストーマ手術後 3 年間の自己適応過程とパターン分析、日本創傷・オストミー・失禁ケア研究会誌 11（1）33. 2007.査読あり
⑱前川厚子，竹井留美，祖父江正代，伊藤美智子，渡辺冨美子：Ostomate's Self Adjustment Scale の日英比較研究、日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会誌 23（1）.74.2007.査読あり

〔学会発表〕（計 39 件）
①Atsuko MAEKAWA, Rumi TAKEI, Masayo SOBUE, Masako MAKINO ,Noriko MENJU：An Experience to live with Urinary Stoma: World Council of Enterostomal Therapy Nurses（WCET）学会,2008 年 6 月 15 日(ルブリアナ市、スロベニア)
②祖父江正代，前川厚子，竹井留美：ストーマケアにおける患者と看護師間の相互行為と自己適応との関連性、日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会、2008 年 2 月 11 日(青森市)
③前川厚子，竹井留美，祖父江正代，伊藤美智子，小林文子，渡辺登美子，作間久美，平井孝，丸田守人，中里博昭、ストーマ保有者

の自己適応と SF-8 にみる QOL の関連性、日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会、2008 年 2 月 11 日(青森市)
④前川厚子、竹井留美、祖父江正代、伊藤美智子、渡辺富美子：Ostomate's Self Adjustment Scale の日英比較研究、2007 年 2 月 16 日(福岡市)

〔図書〕（計 5 件）
①前川厚子編：在宅医療と訪問看護・介護のコラボレーション、オーム社、（2009）356 頁
②佐藤禮子、小澤桂子、小迫冨美恵、小松浩子、濱口恵子、細矢美紀、森文子、足利幸乃、網島ひずる、荒尾晴恵、飯野京子、井沢知子、稲吉光子、遠藤久美、大石ふみ子、川崎優子、川地香奈子、神田清子、神間洋子、小西美ゆき、坂下智珠子、佐藤まゆみ、新貝夫弥子、菅野かおり、菅原聡美、砂川洋子、高見沢恵美子、高山京子、武居明美、田中京子、田中登美、照屋典子、成松恵、花出正美、平井和恵、藤澤陽子、布施恵子、本田彰子、前川厚子、増島麻里子、向井未年子、森本悦子翻訳：がん化学療法・バイオセラピー看護実践ガイドライン、腹部症状と有害事象のアセスメントと看護、医学書院、（2009）181－190 頁
③竹井留美、前川厚子：病期・病態・重症度から見た疾患別看護過程、大腸癌患者の看護、潰瘍性大腸炎患者の看護：医学書院（2008）382-394 頁,416-428 頁
④石川治、真田弘美、前川厚子：在宅褥瘡予防・治療ガイドブック、照林社、（2008）200 頁
⑤日本 WOC 協会編著、前川厚子、真田弘美監修：ストーマケア エキスパートの実践と技術、照林社、（2007）151 頁

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
名古屋大学研究者プロフィール参照

６．研究組織
(1)研究代表者
前川　厚子（MAEKAWA ATSUKO）
名古屋大学・医学部（保健学科）・教授
研究者番号：20314023

(2)研究分担者　竹井 留美（TAKEI RUMI）
名古屋大学・医学部（保健学科）・助教
研究者番号：80402626